

県オリジナル品種「山梨24-1（ふじさんアジサイあかね）」の生産安定支援

農業革新支援スタッフ【花き】

県では生産者と協力し、県内で生産されるピラミッドアジサイを「ふじさんアジサイ」と命名し産地化を進めています。昨年の10月、県のオリジナル品種である「山梨24-1（ふじさんアジサイあかね）」の切り花が初出荷され、多くのメディアで紹介されました。

あかねは開花後20日程度経過すると鮮やかな赤紫色に変化する特徴ですが、開花期が夏の高温期と重なり高温障害による品質低下や台風などによる倒伏など課題がありました。

そこで、生産者組織と県で、現地実証ほを設置し剪定時期や仕立て方法について取り組んだことで、今回の初出荷に繋がりました。

今後も引き続き技術の普及定着を図るとともに、今年度はもう一つの県のオリジナル品種である「山梨22-1（ふじさんアジサイはくと）」の鉢花の初出荷に向けて支援していきます。



管理技術研修会



ふじさんアジサイあかねの初出荷

専門学校山梨県立農林大学校 令和4年度の入学生を募集します!!

専門学校山梨県立農業大学校は、令和4年度より森林学科を新設し、校名も農林大学校になります。21世紀の農業・林業を担うにふさわしい実践力を備えた農林業従事者の育成を目指しています。学生募集の概要及び学校説明会の開催予定は以下のとおりです。

募集人数：養成科 果樹学科20名、園芸学科（野菜・花き）10名、森林学科10名
専攻科 落葉果樹学科 若干名

入学試験：推薦入試 10月6日、前期一般入試 12月1日、後期一般入試 2月8日

学校説明会

第1回	6月19日(土)	10時～12時(済)	学校説明・見学会
第2回	7月31日(土)	10時～15時	学校説明・体験学習
第3回	8月21日(土)	10時～15時	学校説明・体験学習
第4回	9月4日(土)	10時～12時	進学相談会
第5回	10月30日(土)	10時～12時	進学相談会(収穫祭)

【問い合わせ先】専門学校山梨県立農業大学校
〒408-0021 北杜市長坂町長坂上条3251
TEL: 0551-32-2269
<https://www.pref.yamanashi.jp/noudai/index.html>

農作業は安全に行いましょう

少しの油断が大きな事故を引き起こします。「農作業は焦らず、急がず、慎重に!」を合い言葉に、農作業事故にはくれぐれも注意してください。

農薬危害防止運動 期間6月1日～9月30日

令和3年度運動テーマ

「農薬は、周りに配慮し、正しく使用」

農薬を使う機会が増えるこの期間に、ラベルの確認、防護具着用、飛散防止対策実践、散布器具洗浄、農薬の適正保管、使用履歴の記帳などを改めて徹底し、農薬事故を防ぎましょう。

山梨県普及センターだより

編集&発行：山梨県農政部農業技術課
〒400-8501 甲府市丸の内一丁目6-1
TEL: 055-223-1619 FAX: 055-223-1622
<http://www.pref.yamanashi.jp/nougyo-gjt/>
E-mail: nougyo-gjt@pref.yamanashi.lg.jp

No. 53

令和3年6月18日発行

やまなし4パーミル・イニシアチブ農産物等認証制度を制定しました

地球の温暖化抑制に貢献する農産物等を認証

4パーミル・イニシアチブとは土の中の炭素を年間4パーミル、すなわち0.4パーセント増加させることができれば、人類が大气中に排出する二酸化炭素と同じ量を土の中に閉じ込めることができるという考え方に基づく国際的な取組です。

果樹農家の皆さんが行っている、草生栽培、剪定枝のチップや堆肥など有機物の施用も土壌に炭素を閉じ込めるために有効です。

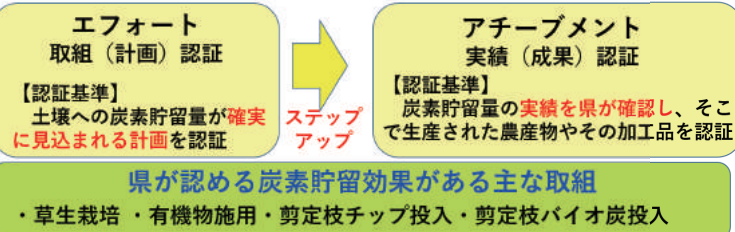
また、県では、昨年度より果樹園で発生するブドウやモモなどの剪定枝を炭にして、炭素を土の中に閉じ込める4パーミル・イニシアチブの新たな取組を始めました。剪定枝を炭にすることによって、より長期間炭素を土に閉じ込めることが期待できます。

先月、この4パーミル・イニシアチブの取組により生産された果実などを、脱炭素社会の実現に貢献する農産物として認証する「やまなし4パーミル・イニシアチブ農産物等認証制度」を制定しました。

果樹農家の皆さんが、この認証を取得し、地球温暖化の抑制に貢献していただくとともに、生産した果実などを「環境に配慮した農産物」としてイメージアップに繋げてみてはいかがでしょうか。認証制度の詳細につきましては、最寄りの地域普及センターにお問い合わせください。

やまなし4パーミル・イニシアチブ農産物等認証制度

脱炭素社会の実現に貢献する農産物の新たなブランドを創造



ロゴマーク使用例

オリジナル品種モモ「夢みずき」の普及に向けて

果樹試験場 農業革新支援スタッフ

果樹試験場では、大玉で食味が良く、生産量も年々増加している県オリジナル品種、モモ「夢みずき」の栽培管理について、県内の果樹担当普及指導員とJA営農指導員を対象に、研修会を開催しました。

4月30日、露地栽培の指導に生かすため、果樹試験場の加温栽培のハウスを会場に、満開から65日目経過した「夢みずき」の最終着果量や果実の大きさ、袋かけのタイミングなどについて目合わせを行いました。

露地栽培での満開から65日後は5月末から6月はじめ頃となります。徹底した栽培管理により、今年の生産量アップにつながることを期待しています。

今後も、県オリジナル品種の普及に向け、指導者を対象とした研修を開催します。

満開から
65日後の果実▶



研修の様子▼

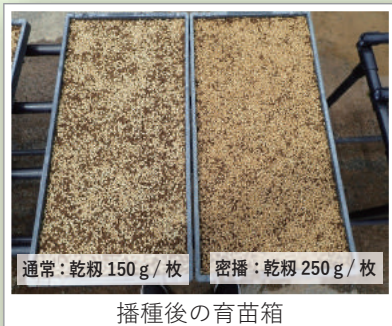


中北地域普及センター

水稲の省力化・低コスト栽培に向けた取り組み

中北地域は、県内の水稲生産面積の約8割を占め、県下最大の水田農業が営まれています。近年、農業者の高齢化により、中北地域における水稲栽培に取り組む法人等では、年々経営面積や育苗などの作業受託面積が増加し、栽培管理の省力化が課題となっています。

そこで、当普及センターでは、水稲栽培を行う農事組合法人と協力し、令和2年度に高密度播種育苗技術（以下、密播という）の実証に取り組みました。この技術は、育苗箱に通常の1.5～2倍量を播種し、



育苗箱数を削減することにより、育苗作業の省力化・低コスト化を図る技術です。

令和2年度の実証結果として、密播の導入により、使用した育苗箱数は10aあたり3割削減、資材費も通常より3割削減されました。また、収量や品質に影響はありません。

本技術に今年度から新たに取り組む農業者も増えています。関心のある方は、中北農務事務所農業農村支援課までお問い合わせください。



田植えの様子

峡南地域普及センター

直売所の春の品揃え充実に向けた品目・作型検討の取り組み

峡南地域では、中部横断自動車道の全線開通が予定されており、地域内直売所への来訪者の増加も期待されています。

峡南地域普及センターでは、直売所の品揃えの充実に繋げるため、地域に適した野菜の新品目、作型の検討を行っています。

本年度はのっぴい農産物直売所（市川三郷町）、道の駅とみざわ（南部町）と連携し、トンネル等露地栽培が可能で、品薄期の3～5月に販売が見込める6品目（ブロッコリー、レタス、タマネギなど）の試験栽培を行いました。



試験栽培の様子（ブロッコリー、レタス3月31日時点）



講習会の様子

一部、課題が残る品目もありましたが、ブロッコリーやレタス、タマネギなどの品目で、3～5月に収穫可能な品種・作型を確認でき、販売面でも評価が高かったことから、品薄期をカバーできる有望品目になることが期待されます。

今後、直売所担当者や生産者と意見交換を行い、品質向上や安定生産などに取り組むとともに、地域直売所の品揃え充実や活性化につながるよう支援して参ります。

峡東地域普及センター

乾燥果実や漬物等の製造・販売は、届出もしくは許可が必要になりました！

地域農業の活性化等を目的に、農業者等が取り組む加工品製造やこれらを活用した農業の6次産業化を推進しているところですが、平成30年6月に一部改正された食品衛生法が、令和3年6月1日から施行され、新しい制度での運用が始まりました。

新制度においては、営業許可業種が再編され、許可不要な食品等を取り扱う事業者についても、届出制度が創設されました。届出対象事業者は、許可を要する事業者同様に「食品衛生責任者の選任」や「HACCPに沿った衛生管理」等が義務化されます。

峡東地域普及センターでは、峡東保健所と連携し、許可・届出制度を含む新制度のポイントをまとめた資料を配布し、管内の農産物直売所及び農産加工を行っている農業者等へ周知を図っているところ です。

今後も関係機関と連携し、安全安心な加工品の製造・販売と農業経営の安定を支援していきます。 ※詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください。

	ドライフルーツ・干し柿 - 原材料を仕入れて加工：届出が必要 - 原材料が自家生産のみ：届出不要 ※いずれも食品衛生責任者を選任
	漬物 - 醤油漬け、ぬか漬けなど：いずれも許可が必要 ※いずれも食品衛生責任者を選任

「対応が変わる加工品の一例」

富士・東部地域普及センター

富士北麓地域における花きのPR活動の支援

富士北麓地域の花き生産者で構成する「富士北麓花き生産協議会」では、5月20日、会員が生産した花きの消費者へのPRを目的とした展示即売会「富士北麓地産地消花フェア2021春」を、富士河口湖町のスーパーマーケットにて開催しました。

今回のフェアは、特に地元である富士北麓地域の消費者へのPRを効果的に行うことを目的として、関係機関の協力によりミニFMラジオ局「FMふじやま」への番組出演や富士河口湖町の広報への掲載、地元JAや開催店舗内におけるポスター掲示などの集客活動が行われました。

当日は、花壇苗や鉢花15種類と多肉植物30種類が出品され、生産者が消費者に直接花の特徴や購入後の管理方法などを説明しながら販売し、用意した約1000鉢を完売しました。

また、ビオラの花色に関するアンケート調査も実施され、地域特産である秋だしビオラの今後の品種選定の参考とするための情報収集も行われました。

コロナ禍での「おうち需要」の増加により花壇苗や観葉植物の需要が伸びているため、消費者ニーズに応える高品質な花きの生産に向けて、普及センターでは今後も、栽培技術向上や新品目の導入等の取り組みを積極的に支援してまいります。



会場の様子